

## 未来へつながる日々の学び



いよいよ3年生は今週の金曜日に卒業式を迎え、新たな活躍のステージへと羽ばたいていきます。その前に11日(水)には、公立高等学校の一般選抜があります。受験する皆さんの健闘と、全員の合格を祈っています。

さて、15年前の3月11日は、東日本大震災が発生した日です。3年生の中には、震災の日には、まだ生まれていなかった人もいます。

岩手県釜石市は、震災の被害が特に大きかった地域です。現地には、震災のことを伝承していくために、「いのちをつなぐ未来館」という施設があります。そこでは、震災当時中学2年生だったKさんが、職員として勤めておられます。

Kさんが通っていた中学校は、海から500メートルほどの場所にありました。3月11日、高さ15メートルの津波が校舎の3階まで押し寄せました。中学校も隣にあった小学校も、校舎は全壊したそうです。

地震の揺れは、経験したことのない、一生続くのではないかと思うほどの長く激しい揺れでした。そして、すぐに津波が来る、と確信したそうです。

その日は卒業式前の放課後で、卒業式の準備や部活動、帰宅する準備をしていた生徒が次々と運動場に集まってきました。避難を呼びかける放送は、停電のため流れませんでした。先生たちは校舎内に生徒が残っていないか確認していたため、運動場には生徒しかいませんでした。そこで、自分たちだけで整列して、点呼をとり始めました。すると1人の先生がものすごい勢いで走ってきて、「点呼はいい。すぐ逃げなさい」と指示を出しました。高台に避難した後、津波が襲ってきたそうです。

避難所には小さな子どもたちがたくさんいました。車いすに乗った高齢者もおられました。中学生は、自分の命を守りながら、周りの人をサポートしたそうです。

Kさんは「防災学習によって培ったことが、実際の避難行動につながった。まさに小学校・中学校での防災学習によって、私たちは助かった。」とおっしゃっています。

毎日の学びの積み重ねが、いざという時に自分や周りの人の命を守る力になるのだと感じました。学校で学んだことは、すぐに役立つことばかりではありません。しかし、いつか必ず皆さんの人生を支える力になります。3年生の皆さんも、中学校での学びを生かし、それぞれの新しいステージで活躍してくれることを願っています。